

令和5年度 第3回印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議  
会議議事録

日時：令和6年3月8日（金）午後2時～3時

場所：市役所別棟 農業委員会会議室

出席者：委員12名

欠席者：2名（杉山 光枝 委員・筒井 慈子 委員） 傍聴者：なし

氏 名	備 考
河内 雅章	医療関係者の代表
飯塚 真司	医療関係者の代表
永井 美奈子	医療関係者の代表
佐久間 郁美	医療関係者の代表
新井 亨	介護支援専門員の代表
蓮實 篤祐	介護関係者の代表
湯浅 恵美子	介護関係者の代表
吉川 貴雄	介護関係者の代表
伊奈 千春	介護関係者の代表
鈴木 誠一	印西地区消防組合の代表
村田 純子	認知症看護認定看護師
荒井 千景	地域包括支援センターの代表

事	務	
	局：高齢者福祉課長	澤田
	高齢者福祉課包括支援係	小塚
		赤間
		太田
	健康増進課庶務係	木村
	印西北部地域包括支援センター	工藤
	印西南部地域包括支援センター	太田
	船穂地域包括支援センター	吉橋

会議内容：1. 開 会

2. 会議録署名委員の選出

3. 議 題

(1) 令和5年度在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業報告及び令和6年度在宅医療・介護連携、認知症対策推進事業計画（案）について（公開）

(2) その他

4. その他

5. 閉 会

議事録：3. 議 題（1）

議 長)

それでは、議題（1）印西市の認知症施策及び令和5年度事業についてです。事務局説明をお願いいたします。

【資料1(参考資料1・参考資料2・介護と医療サポートガイド)に基づき、事務局より説明】

議 長)

ただいまの説明に対してご質問ございますか。あるいは提案等ございましたらお願いします。

B委員)

第2回の会議の中で認知症認知症初期集中支援チームの活動実績が0だったと思います。発足当初から事例が少なかったと思いますが、さらに減っておりました。地域包括支援センターの対応力が上がってきた要因もあると思いますが、なぜ実績が0だったのでしょうか。

事務局)

今年度の実績は、現在の時点で1件です。数としては少ない現状です。B委員がおっしゃるとおり、地域包括支援センターの対応力が上がり、認知症初期集中支援チームが介入するまでもなくサービスに繋がっているケースがあることも理由の一つとして考えられます。また、ケアマネジャーも相談に乗っていただける体制が整い、ケアマネジャーの力で解決しているケースもあります。認知症初期集中支援チームが介入する必要がない案件も増えております。

先日、認知症初期集中支援チーム員と直接介入はしていなくても助言や相談件数の実績を挙げられるようにカウントしていく方向性について話し合いました。今後は、チーム員がどれくらいの支援をしているか、お示しできるようにしていきたいと考えております。

B委員)

認知症疾患センターと認知症初期集中支援チームの母体が同じなので、助言や相談件数の実績が一緒になってしまうと思います。役割もあまり変わらないと思います。認知症初期集中支援チームは市の事業として委託しているので、実績が少ないと今後、問題になってしまうと思います。

議 長)

地域包括支援センターが対応できている結果として、実績が少ないということですね。

事務局)

それも一つの要因だと思います。また、かかりつけの医師が認知症について診断して処方していただいている案件が増えていることも要因だと思います。このように、様々な要因が重なった結果、実績が少なくなっていると考えております。

議 長)

どのような場合に、認知症初期集中支援チームに繋がりますか。

事務局)

例えば、介護認定が必要な認知症の方がいて、本人の拒否や家族の理解が得られず、申請に至らない、または、申請していてもサービスに繋がっていないケース、他には、B P S Dが強く、ケアマネジャーがいても介入が難しいなど、支援がうまく進まない場合に伴走支援していただくことが多いです。

議 長)

一番最初に関わるのは、かかりつけの医師や地域包括支援センターですか。

事務局)

受診にも行けない方もいるので、その場合はチーム員がうまく繋ぐケースもあります。

B委員)

認知症初期集中支援チームの中に医師もいるので、国からは、アウトリーチで自宅に行くことができるという支援も必要だと言われていています。医療や介護が繋がっていない方に対して、おせっかいかもしれなくても訪問することも必要だと思います。

議 長)

印西市は、認知症に対して理解のある医療機関や地域包括支援センターも経験が増えてきた結果、チームに頼らなければならないことが少なくなったことが一つの要因であること、もう一つは、市民が認知症初期集中支援チームの存在を知らないという要因も考えられるかもしれません。国の施策として初期の認知症対応が整備されていない地域のために

作られたものであるため、印西市は、その点で対応できていると考えられるかもしれません。

議 長)

E委員は、多職種連携交流会に参加されていかがでしたか。

E委員)

交流会は非常によかったです。ケアマネジャーだけで話しても情報の幅は広がらないですが、多職種で話すことによって、ここの地域はどのような雰囲気かどのような社会資源があるといった特色なども知ることができました。

議 長)

F委員、今後はどのような開催内容がよいでしょうか。

F委員)

警察官から駐在所の勤務体制など知らないことを知ることができて勉強になったので、今後は、医療と介護の関係者だけでなく、それ以外の職種の参加も増やしていただけると非常にうれしいです。

議 長)

D委員、認知症の方の救急搬送で困ったケースはありますか。

D委員)

認知症の独居の方だと、本人からの聞き取りだけだと情報が乏しいので、救急医療情報キットなどあれば活用できますが、情報がない場合は、地域包括支援センターに協力していただいて、その方の情報を調べていただいております。警察とキーパーソンとなる方の情報を共有しながら搬送先を決めていくような時間のかかるケースもあります。認知症の方なので、救急出動したらなるべく搬送したいと考えています。

議 長)

そのようなケース対応の件数は多いですか。

D委員)

今のところ目立った件数ではありませんが、今後、高齢者の独居の方が増えていくと懸念は出てくると思います。

議 長)

救急キットの活用状況はいかがですか。

D委員)

玄関ドアの裏にステッカーがあれば、冷蔵庫にちゃんと入っているケースが多いですが、情報が最新のものでないこともあるので、情報を変えていく必要があると思います。

議 長)

認知症メモリーウォーク in いんざいの活動状況はいかがでしたか。

A委員)

当日は、イオンモール千葉ニュータウンの中庭に集合し、集客が多くなる時間帯に千葉ニュータウン中央駅の改札まで歩きました。オレンジの差し色が映えて、マンションの住人の方も気にして下りてきてくださったり、駅で啓発ティッシュを配っていると、認知症になったときは、どこに相談に行ったらよいかなど興味を持って話かけてくださる方もいらっしゃいました。私たち支援者が出向いて周知することも効果があったと思います。

議 長)

多職種連携交流会の補足説明をお願いします。

事務局)

今回は1回目と2回目のテーマが同じだったため2回目は欠席している事業所もあり、参加人数の差を今後の開催時間帯の参考にはできませんが、今年度、新たに、警察官や歯科医研修医の方も参加していただき、地域医療を学んでいきたいとお話もありましたので、次年度もより多くの職種の方に参加していただきたいと考えております。事業の実施にあたっては、医療や介護関係者向けに認知症や看取りに関する取り組みを強化していく必要があると示されておりますので、関係する職種の参加となってまいります。また、認知症支援をテーマにすると、多くの職種が意見交換しやすいですが、看取り支援がテーマになると、職種が限られるので、顔の見える関係づくりという目的を達成するためにもテーマは検討が必要だと考えております。内容についても、デイサービスの方など事例検討だと知識不足で参加しにくいとお声もあり、フリートークの時間と合わせるなどの検討も必要だと考えております。

議 長)

デイサービス事業所の職員からご意見はいかがですか。

F委員)

市のデイサービスの連絡会には出席しています。午後2時からなので忙しい時間帯ということもありますが、毎回、出席する事業所は決まっています。研修会の役員もやらせてもらう話がありましたが、コロナ禍になり、その話もなくなってしまいました。連絡会の内容によっては必要性を感じていない事業所もあり、内容のすり合わせは難しいと感じています。

議 長)

多職種連携交流会の企画は誰がしていますか。

事務局)

高齢者福祉課の包括支援係が企画しています。

議 長)

今後は、困難事例などを挙げたほうが具体的でよいと思います。地域包括支援センターの方たちは、日頃からそのような困難ケースに関わっていると思うので、このケースはどうかなど提案していただきたいと思います。

D委員)

多職種連携交流会に、消防もお声かけいただけるとうれしいです。

事務局)

次年度は、ぜひよろしく願いいたします。

議 長)

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして本日の議事を終了いたします。

令和6年3月8日に行われた、令和5年度第3回印西市在宅医療・介護連携、認知症対策推進会議の会議録は、事実と相違ないのでこれを承認する。

令和6年3月19日

署名委員：

永井 美奈子

---

佐久間 郁美

---